

総合型選抜 2022 年度過去問題 歴史遺産学科

I 次の文章を読み、問1、問2に答えなさい。

この二十年、たえず、「なぜ古い建物を残すのか」と自問自答してきた。

当初、保存を訴えると懐古趣味だといわれた。また建て替えることによって経済は活性化するのだから、保存運動家は内需拡大に寄与しない連中だともいわれた。でも懐かしがってなぜ悪いのだろう。「なつかしい」という感情は、人間のみが持つ、文化的な感情である。

なぜ残すのか。何といっても好きだからだ。私は子どものころ、北区滝野川の古河庭園、古河男爵の石造りの洋館を見てから洋館に憧れた。

そうした建物は想像力を喚起する。私は古河邸によって、あの塔の上にはラプンツェルがいるのかもしれない、とか、「ジェーン・エア」の狂女が幽閉されているのか、などと想像をはばたかせた。イギリス人のコンドルが日本に雇われてつくった、いってみれば西洋建築の実物教材であった。西洋というものを私は古河邸を通じて学んだ。

なぜ残すのか。建物は建築史、文化史の上で価値をもつ。歴史は流れであり、ある国の文化を系統だてて理解するためには、各時代の文化財がきちんと残されていることが不可欠である。それは日本人ばかりでなく、日本を訪れる外国人にとっても必要である。洋館ばかりではない。奈良の古寺、岐阜の民家、京都の邸宅、妻籠の町並など民衆の美意識を形成し、磨き上げるもの、壊しては二度とつくりえないもの、それをヘリテージとよぶ。それを見て外国人はその国を理解し、敬意を抱く。ヘリテージのない、新しいだけの都市には風格がない。

なぜ残すのか。建物が町から消えると淋しい。ワシントンのオールド・ポスト・オフィス、市民運動で保存再生された建物には「古い建物は古い友だち」と書いてあった。そのような建物は町の誇りだ。自分の町に由緒ある建物があり、それにまつわる物語があることは楽しいし、訪ねて来た人に自慢（たわいないけど）したり話してあげたりできる。

そして建物は生活の根拠である。古い建物に住み、そこで働くことを愛している人は多い。気持ち落ちつく。時間はゆっくり過ぎる。私のところにはそうした家に住みたい、探したいという問合せが多く寄せられている。

建物は人と人を結ぶよすがとなる。古い建物の保存や再生、それを活用することを通じて、どれほど多くの人と出会ってきたか。保存活動は仲間をつくり、人生を豊かにする。

なぜ残すのか。古い建物を大事にすれば、資源の浪費にならず、廃棄物も出ない。昔から古材を用いた建物は多い。木の生命は長く、シックハウス症候群の子どもを抱える親の中にも、風通しのよい、有毒物質を出さない木の古い家を探している人は多い。

そんなことをあれこれ考えて保存、さらに修復、再生にかかわってきた。どうだ、というような決定的な答は正直いって見つかっていない。これからも悩みつけていくのだろう。

森まゆみ『東京遺産—保存から再生・活用へ—』（岩波新書、岩波書店、二〇〇三年）

問1 「なぜ古い建物を残すのか」という問いに対して、著者はいくつかの答を記しています。このなかで、あなたが最も共感した答を挙げ、その理由を詳しく300字以内で説明しなさい(字数には句読点を含む)。

問2 「なぜ古い建物を残すのか」という問いに対して、著者は決定的な答は見つかっていないと記しています。著書が悩みつづけている理由について、古い建物の保存に反対する意見を想定しながら、あなたの考えを300字以内で述べなさい（字数には句読点を含む）。

II わが国の文化遺産にはさまざまな種類があります。次の㉗～㉚の中から1つを選び、あなたが興味深いと思うところや感動するところを、具体例をあげながら、他者に魅力が伝わるように、200字以内で述べなさい（字数には句読点を含む）。なお、解答した記号を必ず明記すること。

- ㉗ 陶磁器
- ㉘ 和装（きもの）
- ㉙ 仏像
- ㉚ 郷土料理
- ㉛ 祭り